

「カク週替わりコラム ～中学入試の基礎知識を増やします～」 過去配信分

●2024/04/06（土）配信 5月にやっておきたいこと

中学校で開催されている「学校見学会」「オープンスクール」「学校説明会」に参加しましょう！受験を検討していない学校にもどんどん参加してください。ひょんなことから「気になる中学校」「進学してもいい中学校」が見つかります。第1志望校以外で、お子さま・ご家庭にあった中学校に出会うことができれば、中学受験での選択肢が増えます。

●2024/04/20（土）配信 中学入試までの受験スケジュールを知ろう

まだまだ先のことのようですが、来年の1・2月は入試本番を迎えています。入試に向けて、今は何をしておくのがよいのでしょうか？12月には出願校の決定、11月頃には入試説明会に参加、10月頃はプレテスト受験となるため、9月には受験する学校を選んでおく必要があります。つまり、今は受験する学校を選ぶために、学校を知る時なのです。中学校のイベントに参加して、学校に触れてください。素敵な出会いが待っています。

●2024/05/11（土）配信 第一志望校はぶれない

みなさんの第一志望校はどの学校ですか？決まっても、実際に学習を進めていく中で、スランプなどで成績が振るわないことがあれば、第一志望校を変更しようと考えてしまうかもしれません。でも、ちょっと待ってください！中学受験では、多くの学校の入試に挑戦することになりますから、第一志望校に挑戦しつつ、次善校を受験することができる場合がほとんどです。最後まで第一志望校を目指してやり抜くことが大切です。

●2024/06/01（土）配信 併願校の種類①（事前受験校・次善校）

受験では「第一志望校」のほか、併願校を受験します。実はこの併願校には複数の種類があるのです。まず「事前受験校」です。「第一志望校」の受験前に受験する学校です。概ね12月～1月上旬に主要都市などで実施される県外の学校が多いです。次に「次善校」です。「次善校」は「進学してもいい学校」です。お子さまが豊かな中高6年間を過ごすことができると思う学校です。どの学校にも甲乙つけがたい良さがありますので、ご家庭の意向に沿った学校をいくつか決めておきたいですね。

●2024/06/15（土）配信 併願校の種類②（チャレンジ校・合格体験校）

前回に引き続き、併願校の種類です。併願校には「事前受験校」「次善校」のほか、中学受験に挑戦した成果として、受験する学校があります。その1つが「チャレンジ校」です。多くの人が憧れる学校です。また、中学受験の成果として合格を勝ち取るための「合格体験校」があります。これらの学校への挑戦は、これからのお子さまの人生に大きな影響を与えるものになります。

●2024/06/29（土）配信 入試・入学制度の用語①（専願・併願・自己推薦）

今回からしばらくは、入試の専門用語についてお話しします。これらの言葉の意味を知っておくだけで、複雑な入試制度の理解に役立つことでしょう！まずは「専願」です。受験し、合格を勝ち得たら、入学を約束するものです。「併願」は、合格しても入学が必須ではありません。ほかに第一志望校があるときに活用します。概ね「専願」は「併願」よりも合格最低点が低めに設定されています。「自己推薦」は、学力だけでなく、それ以外のことで受験者をアピールする入試です。概ね専願扱いになります。第一志望校が自己推薦を行っているのであれば、挑戦しない手はありません。

●2024/07/13（土）入試・入学制度の用語②（ダブル出願）

前回につづき、入試の専門用語のお話です。今回は「ダブル出願」です。入試が同じ日・同じ時間帯に行われる2つの学校に出願しておくことです。中学入試は一定期間行われます。入試日・合格発表日・出願締切日等の関係で、先に受験した学校の合格発表後では出願が間に合わないときに行います。ダブル出願した入試日より前に行われた学校の入試結果によって、受験する学校を選択できるメリットがあります。

●2024/08/03（土）入試・入学制度の用語③（特待生・奨学金制度）

入試の専門用語に「特待生・奨学金制度」があります。学校によってその名称はさまざまですが、概ね入学金や授業料の免除などが行われます。学校としては、学校全体を引っ張ってってくれる人材を求めており、また最終的には学校の進学実績につながる場合が多いため、制度を設けています。高校になれば就学支援金制度（※地域や家庭の所得によって異なります）によって少ない負担で進学できることもあり、私学の充実した環境に身を置きやすいのですが、中学時は「特待生・奨学金制度」によって、それが可能となります。

●2024/08/17（土）入試・入学制度の用語④（転コース合格・回し合格）

入試・入学制度の用語の最後になります。今回は「転コース合格・回し合格」。中学校によっては2つ以上のコース設定が行われているところがあり、コースごとに入学者を募集しています。この場合、上位コースでの合格を勝ち得なかった場合、もう一方のコースでの判定を行ってくれることがあり、合格を勝ち得る可能性が高くなります。転コース合格・回し合格は受験者が希望することで実行される場合が多いので、出願の際には必ず転コース合格・回し合格を希望しましょう。そうすることで合格を勝ち得る機会が多くなります。